

2. 帰無仮説 $H_0: \mu = \mu_0$ が正しいもとでの分布は,

$$\frac{\bar{X} - \mu_0}{S/\sqrt{n}} \sim t(n-1)$$

となる。

3. $\text{Prob}\left(t_{1-\alpha/2}(n-1) < \frac{\bar{X} - \mu_0}{S/\sqrt{n}} < t_{\alpha/2}(n-1)\right) = 1 - \alpha$

$t_{\alpha/2}(n-1)$, $t_{1-\alpha/2}(n-1)$ をそれぞれ自由度 $n-1$ の t 分布の上から $100 \times \frac{\alpha}{2}$ % 点, $100 \times \frac{1-\alpha}{2}$ % 点の値とする。

自由度と α が決まれば, $t_{\alpha/2}(n-1)$, $t_{1-\alpha/2}(n-1)$ は t 分布表から得られる。

4. α を有意水準と呼ぶ。慣習的に $\alpha = 0.01, 0.05$ が使われる。

5. $-t_{\alpha/2}(n-1) > \frac{\bar{X} - \mu_0}{S/\sqrt{n}}$, または,

$\frac{\bar{X} - \mu_0}{S/\sqrt{n}} > t_{\alpha/2}(n-1)$ ならば、帰無仮説 $H_0: \mu = \mu_0$ は、分布の端にあり、起こりにくいと考える。

⇒ 有意水準 α で帰無仮説 $H_0: \mu = \mu_0$ を棄却する。

6. 実際の検定手続：

(a) \bar{X}, S^2 を実績値で置き換えて、

$$\frac{\bar{x} - \mu_0}{s/\sqrt{n}}$$

を得る。

ただし、 $\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$, $s^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2$ とする。

(b) $-t_{\alpha/2}(n-1) > \frac{\bar{x} - \mu_0}{s/\sqrt{n}}$, または、

$\frac{\bar{x} - \mu_0}{s/\sqrt{n}} > t_{\alpha/2}(n-1)$ ならば、有意水準 α で帰無仮説 $H_0: \mu = \mu_0$ を棄却する。

4.7.2 α , β の仮説検定

「帰無仮説： $H_0: \beta = \beta_0$, 対立仮説： $H_1: \beta \neq \beta_0$ 」の検定を行う。

帰無仮説： $H_0: \beta = \beta_0$ が正しいとするもとでは、

$$\frac{\widehat{\beta} - \beta_0}{\widehat{s_{\widehat{\beta}}}} = \frac{\widehat{\beta} - \beta_0}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \sim t(n-2),$$

の分布に従う。

よって、検定の手順は、

1. 検定統計値

$$\frac{\widehat{\beta} - \beta_0}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}$$

を計算する。

ただし、

$$s^2 = \frac{1}{n-2} \sum_{i=1}^n (Y_i - \widehat{\alpha} - \widehat{\beta}X_i)^2,$$

$$\widehat{\beta} = \frac{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})(Y_i - \bar{Y})}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2},$$

$$\widehat{\alpha} = \bar{Y} - \widehat{\beta}\bar{X},$$

とする。

2. 有意水準 α を決めて (この α は、回帰式の定数項の α とは異なることに注意), t 分布表から $100 \times \alpha \%$ 点の値を求める。通常, $\alpha = 0.01, 0.05$ とする。
3. t 分布表から得られた $100 \times \alpha \%$ 点の値と検定統計値の大小を比較する。すなわち,

$$-t_{\alpha/2}(n-2) > \frac{\widehat{\beta} - \beta_0}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}},$$

または,

$$\frac{\widehat{\beta} - \beta_0}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} > t_{\alpha/2}(n-2)$$

ならば, 有意水準 α で帰無仮説 $H_0: \beta = \beta_0$ を棄却する。

帰無仮説 $H_0 : \beta = \beta_0$ を中心とした分布を考えるとき、データから得られた検定統計量は、分布の端にあり、確率的に起こりにくいと考える。

となる。

定数項の推定量 $\hat{\alpha}$ についても同様。

4.7.3 t 値について

特に、「帰無仮説： $H_0 : \beta = 0$ ，対立仮説： $H_1 : \beta \neq 0$ 」の検定は特別の意味を持つ。

帰無仮説のもとでは、

$$\frac{\hat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \sim t(n-2)$$

の分布に従う。

このときの t 統計量の値 (すなわち、 $\frac{\hat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}$) を t 値と呼ぶ。

回帰式

$$Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i,$$

において、帰無仮説 $H_0 : \beta = 0$ は、「 X_i が Y_i に何の影響も与えない」ということを意味する。

有意水準 α のもとで(この α は、回帰式の定数項の α とは異なることに注意),

$$-t_{\alpha/2}(n-2) > \frac{\widehat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}},$$

または,

$$\frac{\widehat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} > t_{\alpha/2}(n-2)$$

ならば、有意水準 α で帰無仮説 $H_0 : \beta = 0$ を棄却する。

1. 回帰モデル

$$Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i$$

において、経済理論から $\beta > 0$ という符号条件が想定されたとする。

2. 有意水準 α を決める。(例えば, $\alpha = 0.05, 0.01$)

3. 実際のデータから, $\widehat{\beta} > 0$ が得られた場合

(a) t 値が,

$$\frac{\widehat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} > t_{\alpha/2}(n-2)$$

となった場合、帰無仮説 $H_0: \beta = 0$ が棄却され、 $\beta > 0$ が統計的にも証明され、経済理論は現実経済をサポートする結果。

(b) t 値が,

$$\frac{\widehat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} < t_{\alpha/2}(n-2)$$

となった場合、帰無仮説 $H_0: \beta = 0$ を棄却できず、 $\widehat{\beta} > 0$ にもかかわらず、 $\beta < 0$ の可能性もあるため、経済理論が現実経済を積極的には支持しない。

4. 実際のデータから、 $\widehat{\beta} < 0$ が得られた場合

(a) t 値が,

$$-t_{\alpha/2}(n-2) < \frac{\widehat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}},$$

となった場合，帰無仮説 $H_0 : \beta = 0$ を棄却できず， $\widehat{\beta} < 0$ にもかかわらず， $\beta > 0$ の可能性もあるため，得られた推定結果と経済理論は完全に矛盾しているとは言えない。

(b) t 値が，

$$-t_{\alpha/2}(n-2) > \frac{\widehat{\beta}}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}},$$

となった場合，帰無仮説 $H_0 : \beta = 0$ は棄却され，統計的には $\beta < 0$ となり，得られた推定結果と経済理論は完全に矛盾している。すなわち，この場合，経済理論の立て直しが必要。

数値例： 今までと同様に，以下の数値例をとりあげる。

i	Y_i	X_i
1	6	10
2	9	12
3	10	14
4	10	16

回帰モデル $Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i$ を推定した結果、以下の推定値を得た。

$$\begin{aligned}\widehat{\beta} &= 0.65, \\ s_{\widehat{\beta}} &= \sqrt{0.0575} = 0.240,\end{aligned}$$

帰無仮説 $H_0 : \beta = 0$ 、対立仮説 $H_0 : \beta \neq 0$ の検定を行う。 t 値は $0.65/0.240 = 2.711$ 、有意水準 5% の $t_{\alpha/2}(n-2)$ の値は 4.303 となり ($\alpha = 0.05, n = 4$),

$$\frac{\widehat{\beta}}{s_{\widehat{\beta}}} = \frac{0.65}{\sqrt{0.0575}} = 2.708 < t_{\alpha/2}(n-2) = 4.303$$

を得る。このように、有意水準 5% で帰無仮説 $H_0 : \beta = 0$ は棄却されない。よって、 β の符号は統計学的に確定できない。

また、 α についても同様に、 t 値を計算できる。

$$\begin{aligned}\widehat{\alpha} &= 0.3, \\ s_{\widehat{\alpha}} &= \sqrt{10.005} = 3.163,\end{aligned}$$

なので、 t 値は、

$$\frac{\widehat{\alpha}}{s_{\widehat{\alpha}}} = \frac{0.3}{\sqrt{10.005}} = 0.095 < t_{\alpha/2}(n-2) = 4.303,$$

となり、有意水準 5% で $H_0: \alpha = 0$ を棄却できない。

しかし、定数項については、経済学的意味が無い場合が多い。

推定結果の表記方法： 回帰モデル：

$$Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i,$$

の推定の結果、 $\hat{\alpha} = 0.3$, $\hat{\beta} = 0.65$, $s_{\hat{\alpha}} = \sqrt{10.0005} = 3.163$, $s_{\hat{\beta}} = \sqrt{0.0575} = 0.240$,
 $\frac{\hat{\alpha}}{s_{\hat{\alpha}}} = 0.095$, $\frac{\hat{\beta}}{s_{\hat{\beta}}} = 2.708$, $s^2 = 1.15$ (すなわち, $s = 1.07$), $R^2 = 0.786$ を得た。これらをもとめて,

$$Y_i = \begin{matrix} 0.3 \\ (0.095) \end{matrix} + \begin{matrix} 0.65 \\ (2.708) \end{matrix} X_i,$$

$$R^2 = 0.786, \quad s = 1.07,$$

ただし、係数の推定値の下の括弧内は t 値を表すものとする。

または,

$$Y_i = \begin{matrix} 0.3 \\ (3.163) \end{matrix} + \begin{matrix} 0.65 \\ (0.240) \end{matrix} X_i,$$

$$R^2 = 0.786, \quad s = 1.07,$$

ただし、係数の推定値の下の括弧内は標準誤差を表すものとする。

のように書く。

5 多重回帰

n 組のデータ $(Y_i, X_{1i}, X_{2i}, \dots, X_{ki})$, $i = 1, 2, \dots, n$ を用いて、 k 変数の多重回帰モデルを考える。

$$Y_i = \beta_1 X_{1i} + \beta_2 X_{2i} + \dots + \beta_k X_{ki} + u_i,$$

ただし、 X_{ji} は j 番目の説明変数の第 i 番目の観測値を表す。 u_i は誤差項 (または、攪乱項) で、同じ仮定を用いる (すなわち、 u_1, u_2, \dots, u_n は互いに独立に、平均ゼロ、分散 σ^2 の正規分布に従う)。

$\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k$ は推定されるべきパラメータである。

すべての i について、 $X_{1i} = 1$ とすれば、 β_1 は定数項として表される。

次のような関数 $S(\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k)$ を定義する。

$$S(\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k)$$

$$\begin{aligned}
&= \sum_{i=1}^n u_i^2 \\
&= \sum_{i=1}^n (Y_i - \beta_1 X_{1i} - \beta_2 X_{2i} - \cdots - \beta_k X_{ki})^2
\end{aligned}$$

このとき,

$$\min_{\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k} S(\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k)$$

となるような $\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k$ を求める。 \implies 最小自乗法
 このときの解を $\widehat{\beta}_1, \widehat{\beta}_2, \dots, \widehat{\beta}_k$ とする。

最小化のためには,

$$\begin{aligned}
\frac{\partial S(\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k)}{\partial \beta_1} &= 0 \\
\frac{\partial S(\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k)}{\partial \beta_2} &= 0 \\
&\vdots \\
\frac{\partial S(\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k)}{\partial \beta_k} &= 0
\end{aligned}$$

を満たす $\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k$ が $\widehat{\beta}_1, \widehat{\beta}_2, \dots, \widehat{\beta}_k$ となる。
すなわち, $\widehat{\beta}_1, \widehat{\beta}_2, \dots, \widehat{\beta}_k$ は,

$$\begin{aligned}\sum_{i=1}^n (Y_i - \widehat{\beta}_1 X_{1i} - \widehat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \widehat{\beta}_k X_{ki}) X_{1i} &= 0, \\ \sum_{i=1}^n (Y_i - \widehat{\beta}_1 X_{1i} - \widehat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \widehat{\beta}_k X_{ki}) X_{2i} &= 0, \\ &\vdots \\ \sum_{i=1}^n (Y_i - \widehat{\beta}_1 X_{1i} - \widehat{\beta}_2 X_{2i} - \dots - \widehat{\beta}_k X_{ki}) X_{ki} &= 0,\end{aligned}$$

を満たす。
さらに,

$$\begin{aligned}\sum_{i=1}^n X_{1i} Y_i &= \widehat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n X_{1i}^2 + \widehat{\beta}_2 \sum_{i=1}^n X_{1i} X_{2i} + \dots \\ &\quad + \widehat{\beta}_k \sum_{i=1}^n X_{1i} X_{ki},\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\sum_{i=1}^n X_{2i} Y_i &= \widehat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n X_{1i} X_{2i} + \widehat{\beta}_2 \sum_{i=1}^n X_{2i}^2 + \cdots \\
&\quad + \widehat{\beta}_k \sum_{i=1}^n X_{2i} X_{ki}, \\
&\quad \vdots \\
\sum_{i=1}^n X_{ki} Y_i &= \widehat{\beta}_1 \sum_{i=1}^n X_{1i} X_{ki} + \widehat{\beta}_2 \sum_{i=1}^n X_{2i} X_{ki} + \cdots \\
&\quad + \widehat{\beta}_k \sum_{i=1}^n X_{ki}^2,
\end{aligned}$$

行列表示によって,

$$\begin{pmatrix} \sum X_{1i}Y_i \\ \sum X_{2i}Y_i \\ \vdots \\ \sum X_{ki}Y_i \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sum X_{1i}^2 & \sum X_{1i}X_{2i} & \cdots & \sum X_{1i}X_{ki} \\ \sum X_{1i}X_{2i} & \sum X_{2i}^2 & \cdots & \sum X_{2i}X_{ki} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \sum X_{1i}X_{ki} & \sum X_{2i}X_{ki} & \cdots & \sum X_{ki}^2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \widehat{\beta}_1 \\ \widehat{\beta}_2 \\ \vdots \\ \widehat{\beta}_k \end{pmatrix},$$

が得られ, $\widehat{\beta}_1, \widehat{\beta}_2, \dots, \widehat{\beta}_k$ についてまとめると,

$$\begin{pmatrix} \widehat{\beta}_1 \\ \widehat{\beta}_2 \\ \vdots \\ \widehat{\beta}_k \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sum X_{1i}^2 & \sum X_{1i}X_{2i} & \cdots & \sum X_{1i}X_{ki} \\ \sum X_{1i}X_{2i} & \sum X_{2i}^2 & \cdots & \sum X_{2i}X_{ki} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \sum X_{1i}X_{ki} & \sum X_{2i}X_{ki} & \cdots & \sum X_{ki}^2 \end{pmatrix}^{-1}$$

5.1 重回帰モデルにおける回帰係数の意味

結論： 他の変数の影響を取り除いての被説明変数への影響を表す。

$k = 2$ の単純なモデル：

$$Y_i = \beta_1 X_{1i} + \beta_2 X_{2i} + u_i, \quad i = 1, 2, \dots, n$$

β_1, β_2 の最小二乗推定量は,

$$\min_{\beta_1, \beta_2} \sum_{i=1}^n (Y_i - \beta_1 X_{1i} - \beta_2 X_{2i})^2$$

を解いて、 $\widehat{\beta}_1, \widehat{\beta}_2$ が次のように得られる。

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} \widehat{\beta}_1 \\ \widehat{\beta}_2 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} \sum_i X_{1i}^2 & \sum_i X_{1i} X_{2i} \\ \sum_i X_{1i} X_{2i} & \sum_i X_{2i}^2 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} \sum_i X_{1i} Y_i \\ \sum_i X_{2i} Y_i \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{(\sum_i X_{1i}^2)(\sum_i X_{2i}^2) - (\sum_i X_{1i} X_{2i})^2} \\ &\quad \times \begin{pmatrix} \sum_i X_{2i}^2 & -\sum_i X_{1i} X_{2i} \\ -\sum_i X_{1i} X_{2i} & \sum_i X_{1i}^2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \sum_i X_{1i} Y_i \\ \sum_i X_{2i} Y_i \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$= \left(\begin{array}{c} \frac{(\sum_i X_{2i}^2)(\sum_i X_{1i}Y_i) - (\sum_i X_{1i}X_{2i})(\sum_i X_{2i}Y_i)}{(\sum_i X_{1i}^2)(\sum_i X_{2i}^2) - (\sum_i X_{1i}X_{2i})^2} \\ -\frac{(\sum_i X_{1i}X_{2i})(\sum_i X_{1i}Y_i) + (\sum_i X_{1i}^2)(\sum_i X_{2i}Y_i)}{(\sum_i X_{1i}^2)(\sum_i X_{2i}^2) - (\sum_i X_{1i}X_{2i})^2} \end{array} \right)$$

$\sum_{i=1}^n X_{ji}X_{li}$, $\sum_{i=1}^n X_{ji}Y_i$ を $\sum_i X_{ji}X_{li}$, $\sum_i X_{ji}Y_i$ と表記する。
ただし, $j = 1, 2$, $l = 1, 2$ とする。

一方, 次の2つの回帰式を考える。

$$Y_i = \alpha_1 X_{2i} + v_i$$

$$X_{1i} = \alpha_2 X_{2i} + w_i$$

α_1 , α_2 のそれぞれの最小二乗推定量を求めると,

$$\widehat{\alpha}_1 = \frac{\sum_i X_{2i}Y_i}{\sum_i X_{2i}^2}, \quad \widehat{\alpha}_2 = \frac{\sum_i X_{2i}X_{1i}}{\sum_i X_{2i}^2}$$

となる。

$\widehat{\alpha}_1$, $\widehat{\alpha}_2$ を用いて, 残差 \widehat{v}_i , \widehat{w}_i を下記のようにそれぞれ求める。

$$\widehat{v}_i = Y_i - \widehat{\alpha}_1 X_{2i}, \quad \widehat{w}_i = X_{1i} - \widehat{\alpha}_2 X_{2i}$$

\widehat{v}_i , \widehat{w}_i は Y_i , X_{1i} から X_{2i} の影響を取り除いたものと解釈できる。

更に、次の回帰式を考える。

$$\widehat{v}_i = \gamma \widehat{w}_i + \epsilon_i$$

γ の最小二乗推定量 $\widehat{\gamma}$ は $\widehat{\beta}_1$ に一致することを示す。

$$\begin{aligned} \widehat{\gamma} &= \frac{\sum_i \widehat{w}_i \widehat{v}_i}{\sum_i \widehat{w}_i^2} \\ &= \frac{\sum_i (X_{1i} - \widehat{\alpha}_2 X_{2i})(Y_i - \widehat{\alpha}_1 X_{2i})}{\sum_i (X_{1i} - \widehat{\alpha}_2 X_{2i})^2} \\ &= \frac{\sum_i X_{1i} Y_i - \widehat{\alpha}_1 \sum_i X_{1i} X_{2i} - \widehat{\alpha}_2 \sum_i X_{2i} Y_i + \widehat{\alpha}_1 \widehat{\alpha}_2 \sum_i X_{2i}^2}{\sum_i X_{1i}^2 - 2\widehat{\alpha}_2 \sum_i X_{1i} X_{2i} + \widehat{\alpha}_2^2 \sum_i X_{2i}^2} \\ &= \frac{\sum_i X_{1i} Y_i - \frac{(\sum_i X_{2i} Y_i)(\sum_i X_{1i} X_{2i})}{\sum_i X_{2i}^2}}{\sum_i X_{1i}^2 - \frac{(\sum_i X_{1i} X_{2i})^2}{\sum_i X_{2i}^2}} \\ &= \frac{(\sum_i X_{2i}^2)(\sum_i X_{1i} Y_i) - (\sum_i X_{1i} X_{2i})(\sum_i X_{2i} Y_i)}{(\sum_i X_{1i}^2)(\sum_i X_{2i}^2) - (\sum_i X_{1i} X_{2i})^2} \end{aligned}$$

$$= \widehat{\beta}_1,$$

「 Y_i から X_{2i} の影響を取り除いた変数」を被説明変数, 「 X_{1i} から X_{2i} の影響を取り除いた変数」を説明変数とした回帰係数が β_1 に等しい。

一般化： 次の回帰モデルを考える。

$$Y_i = \beta_1 X_{1i} + \beta_2 X_{2i} + \cdots + \beta_k X_{ki} + u_i$$

j 番目の回帰係数 β_j の意味は, 「 Y_i から $X_{1i}, \dots, X_{j-1,i}, X_{j+1,i}, \dots, X_{ki}$ (すなわち, X_{ji} 以外の説明変数) の影響を取り除いた変数」を被説明変数, 「 X_{ji} から $X_{1i}, \dots, X_{j-1,i}, X_{j+1,i}, \dots, X_{ki}$ (すなわち, X_{ji} 以外の説明変数) の影響を取り除いた変数」を説明変数とした回帰係数となる。

5.2 推定量の性質

$\beta_1, \beta_2, \dots, \beta_k$ の最小二乗推定量は $\widehat{\beta}_1, \widehat{\beta}_2, \dots, \widehat{\beta}_k$ とする。

誤差項 (または, 攪乱項) u_i の分散 σ^2 の推定量 s^2 は,

$$s^2 = \frac{1}{n-k} \sum_{i=1}^n \widehat{u}_i^2$$